



教職スタートゼミ2022開催

教職教育センター 所長からのメッセージ

教職を目指すみなさんへ

～職業選択の観点から見た先生という仕事～

教職教育センター所長

経営学部教授 大塚 晴之



教職教育センター所長を務めて2年目となります大塚晴之と申します。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

既にご承知のように、甲南大学では、1年次に「教職入門」を履修することが教員免許を取得するための必要条件となっています。このため、大学に入学するタイミングに、仮にそれが確固たるものでなくても、職業として教員になるというオプションを獲得するためには、教職課程の諸科目の履修を開始しなければなりません。一方で、司法試験や公認会計士試験など資格につながる試験を念頭に置いている学生を除き、多くの学生が職業選択を具体的に意識するのは3年次になってからというのが従来の傾向であったと思います。このため、大部分の教職を目指さない一般的な学生と学生生活を共にしながら、通常の学部専門科目の他に教職科目を履修し、教職に向かって歩むということは強い意志をもたなければ実現できないものでもあります。「教職入門」を履修した学生の中から、教員への道を早々に諦めてしまう学生が

いることの一因はこの点にもあると思われる。しかし、教員という仕事の魅力を考えるとき、安易に履修を諦めることは合理性を持たないかもしれません。重要なことは、自らのキャリアプランを確立するよう努力することではないでしょうか。

就職先として教職(小学校・中学校・高等学校教諭)を見たとき、際立った特徴を見出すことが出来ます。例えば、教員の離職率は約0.4%です。教員の残業時間は多い、教員の賃金水準は高くない、保護者への対応が大変など、マスコミで喧伝されることがありますが、大学卒業後に就職した人のうち約3割の人が3年以内に転職するといわれて久しい中、教職の離職率は極めて低いということが出来ます。このことは、教員という職業のポジティブな側面を見つけるための十分な動機となるでしょう。自分にとって「先生になる」ということの意義は自分にだけしか見つけられません。自らの学びの中で、教員の魅力を見つけてください。

今年度新たに着任された教職教育センターの先生からのメッセージ

井上 快 先生（文学部・教職教育センター特任講師）



『K-TEC通信』2023年7月号を手にとられた学生の皆さん。こんにちは。今年度より教職教育センターで勤めることになりました井上快です。「教育原論」や「教育史」、「教職入門」などの科目を担当します。これからよろしくお願ひします。

この冊子の愛読者ということは、皆さんは教師を夢見て一歩踏み出した、あるいは教師への道の途中といったところでしょうか。「教職入門」でも学習したとおり、日本では「大学における教員養成」を原則としており、教師になるためには大学の教職課程を経なければなりません。なぜ大学で教員養成を行うのか、それは教師に学問研究が期待されているからです。

ところで今から150年以上も前、この国が江戸時代だった頃の学問は現在のそれと全く異なる様相でした。江戸時代中期の学者太宰春台は当該期の学問を「屠竜の芸」と言っています。つまり竜を仕留める技がそうであるように、学問も苦勞の末に習得しても現実には使う機会のない、日常生活の役に立たないものだと評価しているのです。江戸時代は身分制社会であり、学問を修得してもそれを発揮できる機会はほとんどありませんでした。それにもかかわらず、江戸時代は武

士から商人、農民に至るまで多くの人びとが熱心に学問をしました。詳細は省きますが、江戸時代の人びとにとって学問は「遊び」でした。面白いから、楽しいから彼らは夢中で学問に取り組みました。

明治時代に入ると、「学問は身を立てるの財本」という考え方が浸透し、学問は立身出世の手段になります。また明治政府は産業化を進める必要性から、学問のなかでも工学や農学などの実学を推奨しました。こうして学問は、誰かの（何かの）「役に立つ」ものだと見なされるようになり、「役に立つ」ことでその存在価値が認められるようになります。

「役に立つ」学問を望むことが悪いとは言いません。ただ、昨今の日本社会はそうした傾向に歯止めがきかなくなっているように思えます。学問の価値を「役に立つ」か否かのみで判断することはとてももったいないことです。元来、学問とはそんな窮屈なものではなかったし、おそらく教師に期待されている学問も「役に立つ」内容に収まらないはずです。

これから皆さんはどのようなモチベーションで学問に取り組むでしょうか。「就職に有利だから」とか「仕事で役立ちそうだから」というモチベーションは少し忘れて、自分自身の好奇心にもとづいて学問を探求していきましょう。期待しています。

教職教育センター専任教員からのメッセージ

定金 浩一 先生（全学共通教育センター・教職教育センター教授）



「教職課程カリキュラムについて」

教職のおかれている環境は日々大きく変化しています。その変化に対応するべくカリキュラムも組まれています。具体的には、本年度入学生から「教育の方法と技術」が3年前期・後期から2年後期に変わります。これは、中学校、高等学校で行われている、ICTやデジタル教科書を使った授業に対応する模擬授業を行うには、3年になるまでにその基礎に触れておくことが必要であるからです。また、2年次の授業の負担と授業の系統性から、教育心理を2年前期から1年後期に変更しました。今後多くなるであろう3年での教員採用試験などにも対応していく必要があります。学生の皆さんにとってより適切なカリキュラムを組むべく日々努力をしたいと思ひます。

藤原 健剛 先生（経済学部・教職教育センター特任教授）



「夢も生活も」

教員の職場はブラックだと言われて久しい。確かに中学校や高校、特に中学校は部活動の練習や試合などでなかなかまとまった休みが取れないのが現状である。これでは教員志望者が確保できないということで各自治体は採用説明会の際に競ってワークライフバランスに向けての取り組みをアピールする。これは本来もっと早い段階で取り組むべきものであったと私は思う。しかしながら、忙しい忙しいと言いながら授業の準備をし、生徒のために走り回る。その甲斐あってか生徒は驚くべきスピードで成長し巣立っていく。そしてそのうちの何人かは師弟という名の生涯の友人になっていく。素晴らしい職業はいくつもあるだろうが、教員は間違いなく夢の職業だろう。物は考えようである。今がチャンス！各自治体にとって死活問題なので、ブラック打開の努力は本気のような。そして少なくとも教員の世界は、「こんな大変なこと、やってられませんよ!」と上司にも同僚にもグチをこぼせる世界だ。

八木 眞由美 先生（法学部・教職教育センター特任教授）



「学校ボランティア活動に参加しませんか？」

昨年度に引き続き、学校ボランティア活動を担当します。よろしくお願ひします。

みなさんご存知の通り、この活動は、小・中学校の学校現場にボランティアとして入り、先生方のサポートや児童・生徒の学習支援等に従事するものです。学校現場の雰囲気を肌で感じ、先生方の仕事を間近で観察できるというメリットがあります。また、活動にあたっては、事前に面接や中間報告会、振り返りの会等を実施するなど、教職教育センターが、積極的にこの活動をサポートしています。さらに、昨年度からは、大学隣接地域の「本山区（本山中学校区・本山南中学校区）」の小・中学校7校に、学校ボランティアとして参加できる制度を発足しました。地元での活動を希望する学生は、地元での活動も可能です。（本山区以外の神戸市での活動も可能です。）参加学生からは、「学校現場の様子がよく分かった。」「体験を通じて先生になりたいという思いが強くなった。」「とても役立った。」などの前向きな感想が多数出ています。教員を目指すみなさんの積極的な参加をお待ちしています。

教職教育センター 共同研究・実習室(KTL) 指導担当一覧

教職指導員の先生方が11号館2階にあるKTL(K-TEC LABOの略称)に在室しています。下記の表には、先生の専門教科等を記載してありますが、教科等に関係なく、模擬授業実施や指導案作成、教職全般について、指導・相談を受けられます。授業のない時や可能な時間帯に、KTL・KTCを積極的に利用しましょう！

	月	火	水	木	金	土
10:00 ? 13:00	小学校	国語	日本語・ キャリア教育	社会・ 地歴・公民	数学	小学校 9:00~12:00
	田村 泰宏 先生	田中 清貴 先生	吉岡 鎮香 先生	岡本 真一 先生	岡田 眞和 先生	田村 泰宏 先生
14:00 ? 17:00	理科	理科	社会・ 地歴・公民		英語	
	山本 眞弘 先生	田中 芳和 先生	小南 浩一 先生		秋宗 英生 先生	

授業・試験実施期間中(2023/4~2024/1)

テーマ 「教員の魅力」教職指導員の先生からのメッセージ

「国語」

田中 清貴 先生



教師は生徒達と多くの時間をともにします。教師にとって、特にやりがいを感じられる瞬間は、生徒の成長を感じられた時です。勉強内容を理解できなかった生徒が「わかった」と笑顔を見せてくれた時、できなかったことができるようになった生徒の嬉しそうな姿を見た時などは、教師として喜びを感じることができます。面白いですよ、教師になりましょう。

「社会・地歴・公民」

小南 浩一 先生



教師は人を育てる尊い仕事です。生徒の声をよく聞き、一人一人を個人として大切にできる教師になってください。あなたが教える生徒の中には、卒業後も交流が続くことになる生徒が出てくるでしょう。生徒が教師から何を受け取るのには全くわかりません。教師の魅力は、教師になってから徐々に実感されるものだと思います。

「社会・地歴・公民」

岡本 真一 先生



昭和60年、初任校(中学1年担任)での話。授業中に、何度もエスケープするA子がいた。そのたびに、マムシ谷や付近の雑木林の中を探し回った。そのかくれんぼの鬼は、いつも太たく現れた。「こいつ…」と、いつも厳しく叱った。家庭訪問をして、「こいつ…」が「この子は…」に変わった。ネグレクト。5年ほど前に、大人になった「この子」に再会した。そして「あの時、先生来てくれて、ホンマ嬉しかった」と。涙が溢れて止まらなかった。

「数学」

岡田 眞和 先生



どんな仕事に就いても、その仕事に魅力を感じることができれば幸せな人生を送ることができる。教員はそれが自然にできる仕事である。生身の人間に関わっているからだろう。解答がたくさんあるのも面白い。困難が大きい程、解決したときの喜びも大きくなる。だから、困難が苦とはならない。教え子たちと杯を囲む至福のひとつときがご褒美である。

「理科」

田中 芳和 先生



高校化学の教員として、①<一度限りの人生で>非常に多くの人と接することができる(私の場合:担任20年×40人+教科担当40年×200人=8800人)、②教科の専門知識を発揮でき、生徒の進路決定に関われる、③実験を通して化学の面白さを伝えることができるの3点を挙げたいと思います。卒業後、成人した生徒との同窓会も格別です。

「理科」

山本 眞弘 先生



私の父は92歳で以前は兵庫県の高教員でした。最近その父が卒業生に対するZoom授業を定期的に始めました。受講生は私よりもずっと年配で、父や私など足元にも及ばない立派な方も多くいらっしゃいます。でもその方々からは父はいつまでも先生なのです。これも教員という仕事の魅力かもしれません。
※YouTubeで「92(91)歳が読み解く百人一首」と検索してください。

「英語」

秋宗 英生 先生



いつも生徒の事ばかり考え、一緒に笑い、悲しみ、時に言い合い、腹を立て、ある時は叱咤激励、ある時は黙って見守り、気が付けばいつも全力で生徒たちに向き合っているが、見返りは求めない。最後の最後に「先生、お世話になりました。」という言葉と共に生徒の成長を実感し、感無量。これが教員の魅力です。

「小学校」

田村 泰宏 先生



何といても「さまざまなお人に出会えること」です。その良さを感じるようになるには、時間かかなりの努力や苦勞を要するものの、これこそが魅力。素敵なお人をもっている人、パワーあふれる人、なぜか心惹かれる人。子ども、保護者、先輩、同僚と、人と付き合う仕事だからこそ、それだけ素晴らしい出会いに恵まれます。心して楽しみたいことです。

「日本語・キャリア教育」

吉岡 鎮香 先生



知識に裏付けされた経験値の高い先生は魅力的だなと思います。子ども達は好奇心旺盛で、新しいことを学びたいという欲求があります。誰もが手軽に情報を集め易くなった現在、正確な知識を実際に活用し、実体験に基づいた話をしてくれる人、自分の好奇心を満たしてくれる身近な大人はとても魅力的で、憧れる存在だと思います。

教員採用試験に向けて - 教職教育センターの取り組み -

2023年度の実施予定一覧

4月	2・3年生	第1回教科別指導	写真④
	3・4年生	自治体別教員採用試験説明会(神戸市・兵庫県・岡山県・岡山市)	
	4年生	「願書・エントリーシート」講座/面接対策基礎講座	写真⑥
5月	4年生	小論文対策講座 「教員採用試験対策講座」…「集団面接」を中心に行う	
6月	1~4年生	卒業生教員による講演会	
6~7月	2・3年生	第2回教科別指導	
	4年生	「教員採用試験対策講座」 【兵庫県・豊能等1次対策】…「集団面接」を中心に行う 【岡山県・大阪市1次/大阪府2次等対策】…「個人面接・場面指導」を中心に行う 【神戸市1次/奈良県2次等対策】…「集団面接」を中心に行う	写真⑦
7~8月	4年生	「教員採用試験対策講座」 【教科別2次・3次対策】…「個人面接・場面指導・模擬授業」を中心に行う 【小論文対策】…「個別指導」	
10月	2・3年生	第3回教科別指導/教員採用試験合格体験報告会	
11月	2・3年生	教職スタートゼミ2023	
12月	2~4年生	甲南大学卒業生教職員の集い(甲師経星会と共催)	
	4年生	「教職実践演習」…ゲストスピーカーによる授業	
	3年生	【教職教養対策講座】…東京アカデミー(2022年度:オンデマンド配信)	
	1年生	小学校教諭一種免許取得プログラム説明会	
2月	2年生	【一般教養対策講座】…東京アカデミー(2022年度:オンデマンド配信)	
	2・3年生	第4回教科別指導	
	2~4年生	【春期講座】 自己PR力アップ(話し方・文章表現)/地理基礎講座/歴史基礎講座/ 物理実験・観察講座/化学実験・観察講座/生物実験・観察講座/ 面接・教育課題についての討論・場面指導等	写真⑩

教職教育センターでは、教員採用試験に向けて様々な取り組みを実施しています。各教科の指導力を高めるための教職指導員の先生方による「教科別指導」、教員としての実践的指導力を身に付けることを目的とした各種講座、また、各自治体による「採用試験説明会」など年間を通して取り組んでいます。教員採用試験合格に向けて対策講座も充実しています。積極的に参加しましょう!



④ 教科別指導



⑥ 面接対策基礎講座(個人面接)



⑦ 教員採用試験対策講座(集団面接)



⑩ 自己PR力アップ講座

★ 教職スタートゼミを開催しました! ★

2022年12月24日(土)・25日(日)の2日間、甲南大学平生記念セミナーハウスで、「教職スタートゼミ」を開催しました。次年度の教員採用試験対策が本格的にスタートするこの時期に、合格のために必要な事柄を考える、模擬試験に挑戦する、模擬面接を参観する、先輩から勉強の秘訣を聴く等を通じて、「受験勉強を頑張ろう!」という士気を高めました。

このゼミは、教職教育センターとしては、初めての試みです。初日は、強烈な寒波到来、しかも、世間はクリスマス気分という日程にもかかわらず、参加者の皆さんは、熱心にプログラムに取り組みました。参加者にとってのクリスマスプレゼントは、現役合格に最も必要な「最後まで一緒に頑張る仲間」を得たことかもしれません。



参加者の感想を一部紹介します。

「勉強だけでなく、様々なアクティビティーがあり、楽しく過ごせました。」
「仲間や先生方と様々なコミュニケーションが取れたので、とても良かった。」
「静かな空間+周りに仲間がいる=勉強するには最強の空間でした。」など…。
このスタートゼミは、今年度は、11月11日(土)・12日(日)に、開催する予定です。
2年生、3年生の皆さん、ぜひ参加しましょう!

文責:教職教育センター特任教授・八木真由美



教職教育センターの掲示板ってどこ??

教職教育センターの掲示板は下記の通り3つあります。
MyKONAN等で配信した情報のうち、最新版を掲示しています!

【1号館】1Fエレベーター横



※重要な各種説明会・ガイダンス等の情報
※各種対策講座等の日程や教室情報

【11号館】1F入り口右側



※各自治体の教育委員会や私立学校等から届く教員採用試験の案内

【11号館】1Fエレベーター横



※学校ボランティア情報
申込み前に教職教育センター窓口へ
(ボランティアサーティファイトの対象にもなります。)

【11号館2FのKTLには、教員採用試験やボランティアの各募集要項を配架中!】

●●● 小学校教員を目指す人たちへ ●●●

小学校プログラムを設置しています

中学校教諭免許取得課程の履修生に対し、神戸親和大学の通信教育を受講し、小学校教諭一種免許状を取得するプログラムがあります。

通信教育に合わせて小学校プログラム全体会も行い、その専門性を学ぶようにしています。小学校教員をめざす人、また中学校や高校の教員志望の人でも興味ある人は、ぜひ参加してください。



(ICT機器を利用した模擬授業)

※小学校プログラムに参加するには条件があります。

詳細についての説明は、12月に実施される「小学校教諭一種免許状取得プログラム説明会」で行います。対象者は現狀1年生のみとしています。

● 教職教育センターホームページ ●

<https://www.konan-u.ac.jp/ktec/>



教職を目指すみなさんへの情報(採用情報、教員採用試験対策、講師登録制度など)をお知らせしています。

甲南大学 教職教育センター

〒658-8501 神戸市東灘区岡本8-9-1
TEL: 078-435-2277 FAX: 078-435-2278
E-mail: kyooshoku@adm.konan-u.ac.jp